

## 第1回庄内町立図書館協議会 会議録

- 1 開催日時：平成29年5月24日（木）19時00分～21時00分
- 2 開催場所：庄内町立図書館 二階自習室
- 3 出席委員：小野寺姫、小野寺博、松田透、信夫幸、館林由美子、仲條一志
- 4 欠席委員：高梨道明
- 5 事務局：社会教育課長、図書館長、係長、主任

進行：主任

- 1 開会：主任
- 2 辞令交付
- 3 あいさつ

### ○社会教育課長

日頃より図書館並びに内藤秀因水彩画記念館の運営等に対しましてご意見等いただき有り難うございます。今回は改選期。これから2年間よろしくお願ひしたい。

この図書館の一番の課題が施設の整備。昭和54年に建設され、築37年。老朽化や手狭さ等色々な課題がある。新しい図書館については、余目時代の文化の森Ⅱ期構想なり、合併後も色々な協議が行われて来た経過がある。全国的な図書館サービスについては、現在の施設環境では極めて厳しいと思う。昨年度、耐震診断を実施。耐震性があり、耐震補強の必要はないという結論。その結果を踏まえながら内部検討により、図書館整備基本構想（案）を作成し、この協議会にお諮りをさせていただいた。その後の状況については、後から報告をさせていただくが、財源活用の期限はあるものの、焦って緊急避難的な整備、あるいは中途半端な整備はすべきではないと考えている。町としては、本庁舎整備でかなりの負担が生ずる訳だが、長年の懸案である図書館整備については、県内外の新しい図書館の整備内容も参考にしながら、あるべき図書館像を具現化できるような施設整備でなければならないと考えている。

今年7月以降は、新しい町長と改めて調整させていただきたい。本協議会においても、引き続き、本来のあるべき図書館のあり方等についてご検討いただきたい。

### ○図書館長

本年度図書館職員は7名のうち4名、大幅に代わった。一般職非常勤という形で司書3名が新しく入り、今は順調に運営をしている。

新しい委員の皆様には、新たな視点、感覚で、図書館運営について色々ご意見をいただければと思うので、どうぞよろしくお願ひしたい。

昨年度から、図書館整備について様々な検討がされ、基本構想の策定をさせていただき、委員の皆様にご検討をいただいた訳だが、その基本構想と、増築、改築、新築案、それぞれとの摺り合わせが非常に難しい状況で今日に至っている。

本年度、協議会の委員の皆さんには先進地の図書館を視察していただき、庄内町にふさわしい図書館のあるべき姿についてご意見を賜りたい。

## 4 自己紹介

各自自己紹介を行う。

## 5 委員長及び副委員長の選任について

### 《事務局説明》

庄内町立図書館設置及び管理条例施行規則第19条の規定より、庄内町立図書館協議会に委員長、副委員長を置き、それぞれ委員の互選によりこれを選任する。

推薦により 委員長：小野寺姫 副委員長：小野寺博 選任

○委員長あいさつ

今期も委員長をさせていただきます。よろしくお祈いします。この会はフリートークで意見がどんどん出るので、そういうペースでよろしくお祈いします。

それからひとつ、私事にはなるが、私達の所属しているおはなしらんどポップコーンの代表の村上純子さんがこのたび突然亡くなった。私達もすごくも困っているところだが、村上さんの功績を見ると、この図書館協議会にももちろん参加しており、建設の検討の時からも、色々思いを伝えて下さった。一番利用者でもあり、住民の立場で、すごく図書館のことを考えてくれている唯一のすごいファンの方だったということで、町民の中で、図書館を理解してくれる人達が段々少なくなって行くのかなということも別な角度でちょっと感じてしまった。やはり一生懸命、町民の中でこういうふうに図書館を応援して下さる方達の思いを伝えるというか、私達も色んなところで感じている。これからは図書館のただ単に利用者ではなく、ファンという立場でいいので、関心を持ってくれる人を、もっともっと増やして行かなくてはいけないかなと今回思った。村上さんを色々覚えておいていただきたい。よろしくお祈いします。

## 6 報告事項 座長：委員長

- ・平成29年度庄内町立図書館運営計画について
- ・平成29年度庄内町立図書館協議会年間計画について
- ・平成29年度庄内町内藤秀因水彩画記念館運営計画について
- ・平成29年度庄内町立図書館・庄内町内藤秀因水彩画記念館年間事業計画について

《事務局説明》

資料に沿い一括説明。

(委員長) 内藤秀因の入口がどこか分からないというところだが、図書館の入口は分かるということか。

(事務局) それもやはり狭いということと、中に入って来ないとなかなか見えないと言うことで、今の図書館は新しい図書館のイメージとちょっとかけ離れている、手で開ける風除室があり、「ここから入っているのか」、「これが正門なのか」からスタートするみたいで、記念館に関しては、「別に入口があるのか」と思いここを何周もしてしまう、といったご意見を賜っている。

(委員) 玄関にふたつある細長い看板のもっと大きいやつを三方向から見られるように門柱代わりに建ててはどうか。大体10万円はかからないと思う。それでアピールしないと、いつまでたっても、「行ったけれども入られなかった」となる。

(事務局) 遠方から来たお客様には非常に色々不親切。初めてやっここまで辿り着いたのに入口が分からないというのは大変申し訳ないと思うし、確かに看板の必要性は感じている。

(委員) ちょっと変わった目立つやつを。灯籠形式でもいいし。

(委員) 確かに遠くから来た人に図書館の位置とか役場って訊かれても説明しにくい。自分では分かるが、例えば、どこの信号を右に曲がって左に曲がってと説明してもやっぱりそれでも何か、「よく分からない」ということを言われたこともある。大きい道路に面している訳でもないし、小路に入って来るので分かりにくい。

(委員) 47号線の曲がり角、和心のあそこには表示しないのか。役場だけなのか。

(委員) 標識がある。

(事務局) 小路に入っていくという感じでなかなか難しい。

(委員) 何とかしないと段々足が遠のく。

(委員長) 看板でも良いし、幟でも良いし、旗でも良いし。何でも。遠くから見えるような形で。

(委員) ちょっと目立つような変わったやつがあれば、「あそこだ」と思う。

(委員) 中に入ってもまた入口が分からない、そこがまた問題。

(事務局) 施設の顔であるべき入口とか玄関がパツとしないってところが、後で色々整備とかにも絡んでくると思うが、なかなかそれはハンデがあるなというふうに思っている。

(委員) せめて入口が向う側、東側を向いてれば。道路からすぐ見えるような格好であれば少し違ってくる。そこに入って来てからも、なおかつまたこっちに回るってというのがよく分からない。

(委員長) 予算もあるが、できるのであればできるところから。

(委員) 5頁目のところの(3)。高齢者福祉施設への定期的な団体貸出について、まずこの2施設ってどこの施設なのか。それから各30冊って本の選び方、中身についてどういう感じで考えているのかお聞きしたい。

(事務局) 昨年度の2月も話したと思うが、狩川のやまゆりさん、余目のほなみ家さんという、ふたつの高齢者福祉施設の方に毎月30冊を持って行っている。そして内容については、選出した内訳が絵本とか読み物10冊、紙芝居を4冊、週刊誌を4冊、その他の分類を12冊、これで合計30冊ということで、職員をローテーションで回して、毎回同じ分野ではなく、毎月違う分野を選ぶようにしている。

(委員) その中身については、施設の方が「こんなものをお願いします」という要望あるのか。

(事務局) 返しに行く時にスタッフの人から反応を聞くと、「昭和のスターが載っている写真集、最高もしえがったけ。裕次郎最高いけ」、紙芝居なんかも、「愛染かつらがすごくよかった」と。高齢者用紙芝居で子ども達ではなかなか理解できない内容だが、「すごくおもしろくて」という反応があった。あと、この辺の田川地区とか飽海地区の原風景が載っている写真集とか、その時その時で、工夫を凝らして私達も持って行くが、そういった「面白かった」という反応があると「また次何持って行こう」と励みになる。まだ色々そういったお声を聞きながら、指導を仰ぎながらやっている。

(委員) 普通の小説も少しは持って行くのか。

(事務局) 大活字本があるが、高齢者の方も読みやすい大きな字の本や詩集とか。敢えて選んでいるとしたら、あまり細かい字がたくさん載っているものより、詩集とか、逆にお子さん向けの民話とか、昔、孫に語ってあげたようなものとか、そういうものを持って行っている。

(委員) 毎月1回変わるなら楽しみにしてくれている感じなのか。

(事務局) だと嬉しいと思っている。

(委員) 「いつ行っても同じだけ」とかいうよりは、「またどんな新しい本持って来てくれるのだろうか」と楽しみがあるとよい。

(委員長) この施設というのは手上げ方式なのか。こちらの方からランダムに選んだのか。

(事務局) 当初、保健福祉課と団体さんと話し合いをする場で、「ちょっと提案してみてください」と言い、それで手を挙げて下さったのがこの施設。実際、施設の方に出向き、「こんなイメージでやりたいのですけれど」と担当の方と話をさせていただいて、昨年度試行という形でスタートした。「管理が難しいから辞めたい」といった声が幸いなことにならなかったため、初めから運営計画の中に入れて今年度はスタートした。

#### 《町立図書館整備について》

(事務局) 新課長になり、前年度の2月の後半の協議会から5月の下旬までにかけての最新の進捗状況で、なおかつ、ここでご報告できる範囲のことを課長の方から皆様にご報告します。

(課長) 4月からであり、私の方からはなかなか報告しづらい内容であるが、私の方から報告したい。新たな委員お二人には図書館整備構想案をお渡ししている。委員全員には現在の図書館の面積、開架閉架の冊数、施設の現状と課題、2枚目には、現在の図書館の平面図を渡している。これは後からご覧いただきたい。

それでは前本間課長から引き継いだ内容と4月以降の状況について、口頭であるが報告をさせていただきたい。まずは振り返って昨年のお話だが、昨年の11月30日に町長に対して教育長と前社会教育課長が図書館整備構想案を説明した。12月26日には耐震診断を実施した業者に依頼していた改築案と増築案が社会

教育課に提出された。施設整備のみの経費となるが、改築案が約6億6千万円、増築案が約6億円。この内容を12月28日に教育長と前社会教育課長が町長に対して説明した。町長からは現図書館の課題の中で、「広さ・スペース」、「床の段差」、「トイレ」、この3つを解決できる程度の増築が良いのではないかと、まずは平成29年度1年かけて調整、考えることにしたいとの話が出されている。今年に入って1月5日に教育委員による図書館整備懇談会が開催され意見交換が行われたが、教育委員5人それぞれの考え方がバラバラで意思統一できなかった。そうした状況の中で1月12日に町長と教育委員による総合教育会議が開催され、その中で図書館整備に関しても協議が行われたが、なかなか意見がまとまらないことから、町長からは「もう一度整理し直すように」と投げ返された。そうした経過があり、業者に対しては、色々な増築パターンを作成をお願いした。最低の増築、ミニマム案も提出されているが、それでも工事費で約3億8千万円、実施設計を含めると約4億円程度になる。

皆さんもご承知かと思うが、3月定例議会の一般質問で小林清悟議員から図書館整備のことが出された。小林議員からは色々な質問があったが、その中で、「耐震補強できず改築が必要な武道館を余目保育園跡地へ移転し、その武道館跡地に図書館を移転しては」という提言も行われた。

有利な財源である過疎債と合併特例債の活用期限が平成32年度であり、それを踏まえると、今年度中には整備の方向性を固める必要がある。長年の懸案であるものの、新しい施設設備が優先され、これまで待たされてきた図書館整備について、ミニマム案の場合は緊急避難的で中途半端な整備に終わってしまう可能性がある。最低限の増築を行ったとしても、現在の書庫がパンク状態にあることなど、広さや床の段差、トイレ以外にも数多くの課題を抱えている施設なので、必ず近いうちに再整備が必要になるので、結果的に二重投資になってしまうことが懸念される。ある程度の経費はかかっても、将来に渡り、町民に愛され、利用される生涯学習の情報拠点として整備すべきものと考えられる。

今後県内の新しい図書館の視察研修や色々な最新情報を収集するとともに、改築するにしても、もう少し経費を圧縮できないのか、内藤秀因水彩画記念館をどうするのか課題はあるが、現在の武道館敷地への移転も考える必要があるのでないかと考えている。現敷地での改築案、色々な増築案、移転改築案のそれぞれのメリット・デメリットを押さえることにしているが、町長選挙の前には結論は出せないと考えている。選挙で当選される新しい町長と、新たに選任される教育委員に、施設の現状なり図書館整備構想、他自治体での図書館整備状況等を十分説明した上で、改めて検討、調整すべきと考えている。教育長としては、「もう少し時間をかけても改築すべき」という考え方であり、それは私も同じである。

(委員長) 経過と今後の道筋が少しは示されたところ。誰しもどうせ造るならば中途半端なものではなくてという思いはあるとは思う。

(委員) 新しい町長と話をしないと進まないということは当然。それまで皆さんアイデアがあればあったためおいた方がよい。

(事務局) 参考までだが、課長から新しい図書館は県内などの新しい図書館を見ながら検討して行く必要があるということだが、本当にこの近年すごい建設ラッシュとなっている。昨年3つ、米沢、東根、大江、建設完了し、新館建設の予定としては、大石田が今年度。白鷹が平成31年。高島も平成31年。すぐ隣の酒田市が33年。山形新聞にも載っていたとおり、長井市さんでも決まったようだ。2022年3月オープンを目指すということで、今挙げただけでも大変な数。その少し前、委員長もおっしゃったとおり、村山の飴葉プラザとか、中山町とか、その辺りも、数年前に素晴らしい施設が建っている。何も県外に視察行かなくても山形県内だけでも、これだけ新しい施設が建っている、そして予定もある。

酒田市さんは駅前開発という全く異次元の方向に向かっていて、今年の1月に酒田コミュニケーションポート整備基本計画というものがホームページから出せるようになってきている。それを見ると本当に私達が図書館協議会の皆さんともずっと議論を重ねて来た目指すべき姿というのを、まさに具現化しようとしている。そ

れがこの計画からは読み取れる。すぐ近くでそういう動きもあるということをご承知おきいただければと思うし、図書館を巡る社会情勢が大きく変化しているということをご承知おきいただきたいなど思っている。

(委員長) 今まで検討する中であって、図書館を単体ではなく、これからの在り方を考えると複合型と随分前から言われた。今の考え方をみるとやっぱり単体なのか。

(委員) ここも記念館との一体、ある意味で複合化ではないか。

(委員長) そういう意味ではなく、子育て支援施設とか、保健センターとか、そういった町民が利用するところと一緒に用が足りるような、そういう複合型もしくは商店街を含めるとか、そういう複合型っていうのが一時期新しい図書館の姿であったような気がするが。

(課長) 色んな紹介あった訳だが、最近の状況はほとんどが複合型。じゃあ、うちの方はどうかという内藤秀因記念館となる。それが複合と言うかは別にして、特に子育て支援センターとの複合については町長は考えていないようである。

(委員長) 図書館っていうものをどういう場所として考えるのか。本を借りる場所、調べ物をする場所、学生が勉強する場所っていうのは、一番一般的な考えで今まで来た訳だが、より多くの町民が利用するには、それプラス、居場所、待ち合わせなどできるような場所、ちょっと軽くお喋りができるような場所、お茶を飲みながら、缶ジュース飲みながら、くらいで居られる場所。「居場所づくりみたいなのところがいいよね」と意見を随分温めて発信して来たつもりだが、やっぱりそういった部分は届かないのか。

(課長) カフェコーナーは盛り込まれているようだ。

(事務局) 滞在型ということを意識した基本構想だが、図書館というのは他の施設と違って、図書館は0歳から高齢者の方まであらゆる人が集う場所。その人たち全員が居心地がいいなと思うような建物、そして長く居ても本当に空気感がいいなと思えるような、そういった場所にする、したい、という考え方である基本構想を考えたつもりである。

複合という点では、建物的に他の要素と繋げるのが難しいということなので、新庁舎との複合というか、若干離れてはいるが、あの距離感を活かし、特色として運営して行けるような手立てや企画と運営で工夫をしていく、サービス展開して工夫していく。行政側で色んなイベントを仕掛ける時に図書館もタイアップしてやっていきたい。「みんなの道」という構想があり、その道もこのエリアの大事な要素になっていることなので、そこで緩やかな繋がり感を持って、付かず離れずのような形で、お互いに情報提供しながら、このスモールスケールを活かしていくことを戦略としては考えたつもりだ。それが複合にあたるか分からないが、役場新庁舎と一緒にコラボレーションしていくに値するコンテンツかなと思っている。

(委員) 新築の場合だと、今言ったような望みがあるが、改築とか増築となると今のような話はほぼ望み薄になってくる。そういったことにスペースが取られると、ただでさえ狭いから、実際に本を置ける場所がないとか、それに読める場所を削ってまでカフェコーナー作るとかはできないだろうから。

(事務局) 昨年度来、増築案と基本構想の狭間であって、館長をトップにして非常に苦労して、まだ結論が出てない。なかなか満足できる、ウルトラCの解決策が出せない。

(館長) 増築の場合は、骨格そのものは変えず、多少修繕したり、天井を治したり、防音装置を付けたりしても、色んな部屋の制約があり、予算が一番低い3～4億くらいで造るとなると、この館をそのままにして、そっちに渡り廊下で別館を建てるという構想になる。それでは全く我々が構想している図書館の新しい基本構想とは相容れない造りとなり、今言ったような行政支援というか、行政とタイアップしていくとか、観光ともタイアップしていくとか、そういうスペースを取ることができない。

最大の課題ではあるが、入口の問題と床の段差とトイレの問題だけを解決し、これまでと同様の利用者だけを相手にやって行くのであれば、それはそれとして100歩譲っても、そういう考え方もあるかもしれないが、これからの図書館が地域住民へのサービス施設としてどうあるべきかということ、先程委員長さん

もおっしゃっていたが、誰でも寄って休める、そういう施設でありたいと思った時には、なかなか増築案で、ミニマム最少予算での建築は、なかなか問題が多いなど考えている。それで少しでも基本構想に近付くように増築の在り方を検討したが、予算が段々上がってくる。4億から5億、新築に近いくらいの値段になる。業者がこの土台の骨格を残しつつも、増築して新しく作る案でさえも、やっぱり5億くらいはかかってしまう。

結局、最小の増築案で行くと、おはなしの部屋も取れないし、会議室も取れないし、カフェコーナーも取れないし、ただ段差がなくなって、少し一般閲覧室が別の場所に渡り廊下で広くなるというふうになる。事務室が一般閲覧室のところへ移動する、それで皆さんに喜んで貰えるのか非常に悩ましいところである。

(委員) 先程色んなところで建築している、これから予定もあるということだが、ひとつに老朽化という問題もあるのだろうし、その他にやっぱり何か先程から出ている複合化のために建て替えているとか、そういうことはあるのか。

(事務局) 聞いたところによると、大体同じくらいの時期に建てたので、ここも同じだが、あと首長さん方が図書館に目を付け始め、やっぱり老朽化っていうが、地域づくりの拠点となり得る施設だということに気が始めたという指摘をする方もたくさんいる。実際様々な冊子等に、全国の首長さん達が、「自分がなぜ図書館建設を推進したか」という意見を発表している。

全くの私案だが、やっぱり図書館は最もパブリックな公共性の高い施設ではないかなと思う。まず無料で使える、申請が要らない、事前申請も何も要らなくて、フラットに入って来て、誰でもウェルカム。不審に思う人は誰もいないというか、私達職員も全然お金も何も払わなくても、「本当によろこお出で下さいました」と歓迎して迎えることができる施設。社会的弱者の方達、色んな障がいを持っておられる方達。仕事第一線をリタイヤした高齢者の方達。色んな不自由を、ハンディキャップを抱えた人達、全ての人が同じ時間で、同じく空間を過ごせる。そんな施設は多分自治体の中でないと思う。それをどう捉えるかというところ。そこに力を注ごうというふうに思っている自治体が段々仕掛けて来ているというところもあるようだ。色んな考え方があると思うが、それは私達は意識しておかなければいけない点かなというふうに思う。どのお客様の居場所にもなる。先程委員長さんもおっしゃったとおり、そういう空間にするには、本当にたくさんことをクリアしなければいけないが、必要な施設なんじゃないかなというふうに思っている。

(館長) 記念館が併設されている複合施設と言うのかどうか、人口減少の中で、これからの地域創生の中で、観光としての交流人口の増加を各市町村が目指しているところはある訳だが、先程も内藤秀因の100回記念、没後30周年記念の来館者を見ると、東北各地、県内各地からいらっしやっていた。前県教育長の菅野滋さんも来ている。色んな方々が内藤秀因さんの絵を見に来る。そういうことも合わせて考えると、そういうふうな芸術に触れる方々も訪れる施設であり、読書に訪れる施設でもあるが、そこでコラボレーションがある。芸術と読書を一体的に扱える、そういう他の施設にはない。ただ、ナセBAには展示施設はあるが、そういう意味の相乗効果を狙った、新しい視点での図書館ができるんじゃないかなというふうに思う。だとすると、遠方から来た方々がちょっと休める場所が欲しいし、ゆったりできて、庄内のことについても、庄内町のことや庄内地域のことについても知る場所でもあって欲しいというふうに考えた時に、クラスセもある訳だが、この図書館もそういう役を担えるのではないかなというふうに私は考えている。

龍神マラソンで、観光協会が一生懸命頑張ってやって下さっている訳だが、それで900人の人が集まる。図書館は1箇月の期間から約4,000人集めるというような、それだけの集客力はあるのだからということ再認識して、その良さを活かして行く必要があると思った。

(委員長) 一般町民がいつも思うことは、社会教育は社会教育、例えば、子育て支援センターが欲しいっていうのはこっちの要望、図書館が欲しいっていうのは社会教育の要望。観光施設のあれして欲しいっていうのは観光でことで、同じ町だけど、それぞれ違うところで話が出ているっていうのを、そこを何とか全てを繋げ

られるような観点でして貰えればと、素人の町民としては思う。こっちは管轄外だから、そっちはそっちでしてくれみたいなどころがあり、そこは難しいところではあるかなと感じる。

(委員)「首長さんの思いで」というところが先程話があったが、龍神マラソンは町長さんが起案されてっていうことで進んで行った訳だが、その首長さんの思いっていうのは非常に強いのかなと思うが、町長さん自身、図書館についてどう思っているのか。

(課長)「できるだけお金はかけたくない」ということだと思う。本庁舎整備、今進んでいるが、これで30億円程度が掛かる見込み。これまでもクラッセ、町湯、道の駅、八幡スポーツ公園等々の施設整備が行われ、起債の償還金も、これから負担が大きくなって行く。町長は色々なこと考えなければならぬ。図書館のことばかりを考える訳には行かないので、総合的に判断すると、図書館にはなかなかお金をかけられない思いが強いと思われる。先程来、出ているとおり、「やはり図書館の施設整備は必要なんだ」と、私は教育委員会がひとつにまとまらないと町長に対する説得力が強まらないと思う。教育委員そのものの意見が割れているので、まずは教育委員会の意志統一を図って行くことが前提になる。今後、委員構成が変われば、また可能性があるかもしれない。やはり委員の皆さんの地域性というか、そういったものはあると思う。温度差がある中で、どうやってそういった意見をまとめて行くかが重要となる。

(委員長)クラッセとかの構想より前に、もっともっと前に文化の森構想の時から図書館はあったが、やはりその首長さんの意向と言われればそれまでって感じで。でも今、耐震のことも踏まえてここまで来た訳なので、皆様の中でも目指すものとして色んなイメージを膨らませていただいて、そういった会議の場で、情報をまたいただければと思う。

## 7 協議事項

### (1) 庄内町立図書館事業評価平成28年度分について

《事務局説明》資料に沿って一括説明。

(事務局) 事業評価に関連して事例5。第3次子ども読書推進計画が県から発表。協議会の委員の方達にもぜひ共有化していただければと掲載させていただいた。昨年度の一年間の取り組みに限定したのではなく、今までもずっと積み重ねて来た学校との連携とか子ども達への読書支援とか、あと若干新しい取り組みとして、各種イベントへの職員の派遣ということで、商店街のイベントでの読み聞かせということで、画像入りで県内に発信していただいたところ。様々な取り組みしているということで、事例としてピックアップしてご紹介申し上げた。

(委員長) タイトルがいい。「本好きな子どもと本の楽しさを伝える人がたくさんいるまちをめざして」。素敵なタイトル。

(事務局) 本町の子ども読書推進計画の最初に掲げるキャッチコピーを使っていた。

(委員長) 28年度は高齢者福祉施設を始め、新たな取り組みというか、フットワーク良く色々なものに取り組んだなと感じられた。

先程の挨拶で「学生以来入ったことがない」とおっしゃっていたが、一町民として図書館でこんなことを、こんなにいっぱいのことをしていたことは感じる部分っていうのはあったか。

(委員) 正直なかった。今初めて。こんなに活動しているのも知らなかったし。子ども達がたまにここに来て勉強しに来るのはたまに聞くけど、やっぱり部活動が忙しくて、そんな時間が作れる訳ではなく、正直図書館自体に接するというのは今までない生活を今まで送って来たので、今黙々今話を聞かせて貰って。「何も知らなくて申し訳ありません」そうした状態。

(委員長) やっぱりまだまだ図書館っていうのは、子どもとかそういう人が本を借りに来るところという限定的なイメージ。知って貰ってよかった。

(委員) 事業評価には関係ないかもしれないが、最近気になるのは、最近図書館の記念誌が抜き取られるの

は庄内町立図書館ではどんな感じか。

(事務局) その一報を受けて当館では開架には記念誌とか置いていないが、まれに閲覧希望の方もいるので、もう一度全部見てみた。幸いなことに切り取りというのは見た限りではなかった。ただ、何回も調査が来ている。記念誌だけ、が、学校新聞、雑誌、レシピ本、ソーイング本に拡大。マスコミを賑わし、図書館について不安な施設ってような思いをさせてしまっていることに我々図書館員としては心痛めている。写真の部分だけを切り取っていつているというようなことだと、なかなか不安な気持ちを煽られる。

昨日の報道によると天童市さんでも新たに見付かった。かなりの数のものが見付かったという報道。今始まったことではなく9年前から置いていたということで、それが今新たに再調査して分かったので、いつの時点でそういった事件や事故が発生していたのか限定できないということ。なかなか原因を突き止めるのは難しいのではないかと。

(委員) 何か目的はあるんでしょうけど、ただ、一人の人が全国を股にかけてやっているとはとても思えない。そういう団体か何かがあって横の連絡を取りながらなのか。

(事務局) 本当は一番安心して子ども一人でも来られるはずの施設なので、そういった不安を払拭するようにして私達図書館も安心していただけるような信頼を回復しなければいけないなと思っている。

(委員) いくら何でも監視カメラを付ける訳には行かないだろうし、その気になったら防ぎようがないだろう。

(委員長) 監視カメラ、ここには付いてないのか。

(事務局) ダミー。

(委員) あんまり付けちゃうとプライバシーがあるだろうし。

(課長) 本当は図書館に付けて悪いのか。

(館長) そんなことはない。でも、「付けないのが望ましい」とは言われている。今回の事件をきっかけに、やっぱり監視カメラを設置することを検討するという図書館もある。

たまにだがレシピの頁が抜けてるってある。

(委員長) そういう切り取りじゃなくて、普通はコンビニ行ってコピー取るとか書き写すとかするんだけど、面倒くさいのか。

(館長) 頻繁ではないので今回みたいに大きな話題にはならない。これまでもたまにはある。

(委員) ちゃんとコピーのサービスある。1円だけか20円でできる。

(委員) いままでこうパラパラッと紛失原稿、隠れたところでやって来たと思うが、今こうやってクローズアップされると愉快犯とか面白がって、「じゃあ、自分もソオッとやってみよう」って子が増えるような気がする。子どもだけじゃない訳だが、それをどうやって防ぐか。監視カメラ以外の所で、柔らかい呼びかけみたいなのができれば。それで防いで行くしかない。

(事務局) こうなる前には、よく図書館にあるのは、特設コーナーを設けて、「本が泣いています」と、敢えて事故本を展示して、「こういうことが起きていますよ」と来館者にアピールすることは、以前から色んな図書館で取り組みはあった。ただ、これだけ全国的な規模で、しかも特定の分野、学校ってところが関連していたのでショッキングだった。子ども達が写っている姿が切り取られていたっていうのが端を発して不安要素が煽られているという感じがする。

(委員) ここにそういう関連は何もないか。子ども達の学校の文集のようなものとか。

(事務局) それは資料としてはある。ただ、事故が今回はなかったということだけ。

(委員) その辺には事故がなかった。

(事務局) なかった。

(委員) 卒業アルバムとか、そういうものない。

(事務局) 卒業アルバムはない。全校ではないが文集はある。あと、卒業名簿的なものはある。随分昔の閉校

記念に編纂されたものとか、様々な形態で色んなものがある。

(委員長) それはしまってる。だから事故が防げているというのものもある。

(委員長) みんなの居場所ってオープンにしようっていう反面にそういう問題も出る。そのバランスが難しくなって来る。

## (2) その他

《事務局：協議事項はなし》

委員からもなし。

(委員長) 最近図書館利用して思うこととか、「これは言っておきたいなあ」なんてある方。

(委員) 職員が4名代わったと出たが、去年終わりにくらいに説明聞いたのが、「非常勤職員が短時間になった」と聞いたが、そうすると全体的に人が少なくなった。議会だよりを見ていたら、「解釈が違っているんじゃないか」と見えた。あれはどうだったのか。

(課長) 議会広報に書いてある通りかと思う。

(委員) ということは、前と同じように長時間というか、できるということなのか。

(課長) 6時間に今年変えたので、なかなか年度途中からまた戻すことはできないと思う。今年度はこのやり方でやるしかないと思うが、我々は図書館のみならず公民館主事が一番問題。色んな問題が噴出している状況なので、声を大きくして総務課の方に、「元に戻していただきたい」ということで要望はしていきたいと思う。今まで7時間15分が6時間になった。ひとり1日1時間15分減るということは、公民館は二人いるので2時間半減る。一週間一月相当な時間が減る。事務事業を見直すように指示はしているが、そんなに大きくは減らせない。直接住民サービスに関わる仕事。同じような仕事を、それだけ少ない時間でこなすのは非常に厳しい。時間外手当も枠が設定されている。「じゃあ、時間外すぐ付けます」もできない。主事の負担大きくなっている。

(委員) 特にこういうところは、土日とか殆ど出ているので普通の職員とは体制が違う。その中でその人達が短時間だとますます負担がかかる。

(事務局) 図書館とか美術館とかって特異性をもっと理解して欲しかった。事業評価10頁の後半にも、「人員体制について」と敢えて入れさせていただいたが、有資格者が必要な施設。その人達への待遇とか付加価値とかどういうふうに捉えるかということで、昨年度末本当に色々ディスカッションしたが、結果的にそこが充分伝わらずに、6時間ということやらざるをえず、ただ、おっしゃったとおり、土日シフトがあるので、6時間で同じ人数でどうしてもシフトが組めないで1名頭数は増やしたが、ただ今2ヶ月経過してみると、そういう専門性が必要な人達が6時間でシフトがポンポン変わって行くのは、じっくり知識を蓄えるという時間がなかなか確保できずに非常に難しいなと思っている。

一番危惧されるのは学芸員。学芸員は1名のままで、今までも展示替えの時も本当にサービス残業で何とか頑張って来たのが6時間に減らされてしまったというか、減ってしまった。でも、だからといって、展示の水準を下げていいのか、「時間がないから展示ができない、企画ができない、保存状況どうでもいい」訳にはいかない。結局、使命感とか責任感とかにすぎるしか今ない状況。

(委員) 早く戻して貰いたい。

## 8 その他

県内先進地視察研修について説明 (別紙案内)

## 9 閉会：主任